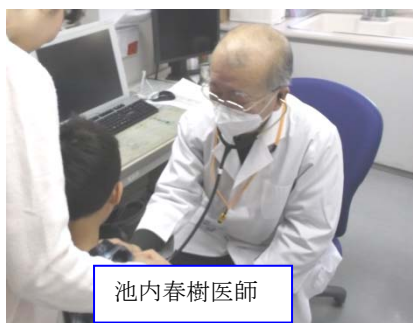


第2回避難者健康診断を実施しました！

避難者の方が思った以上に心配を抱えていることを実感しました！



木村彰宏医師



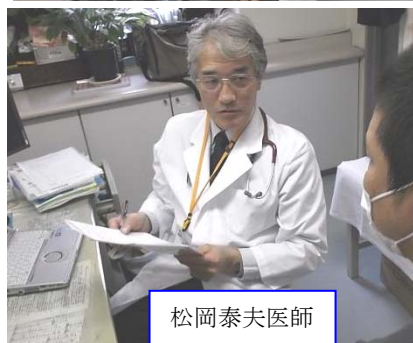
池内春樹医師



矢藤慎也医師



東一医師



松岡泰夫医師



恒例のスマートボール
すくいは大盛況

3月9日（日）に神戸協同病院にて第2回避難者健康診断を実施しました。当日は21家族47名（成人21名小児26名、避難元別では福島県5名、岩手県1名、茨城県1名、埼玉県9名、千葉県7名、東京24名）の方が受診されました。健診に参加した、職員・関係者は44名でした。神戸協同病院の職員の他、たじま医療生協を除く全ての医科法人から参加し医師は保険医協会の池内春樹先生、兵庫民医連で初期研修を修了し現在、K病院で小児科医の矢藤慎也医師も協力してくださいました。また瀧本医師が甲状腺エコーの画像チェックで待機し、検査を受けられた方に直接フィードバックを行いました。

受診者は以前兵庫民医連が行った避難者相談会に参加された方もいらっしゃいました。みんな血液検査から甲状腺エコーまでできることや、医師が丁寧に対応してくれることにとっても感謝されていました。今回も緊張する子供さんの気持ちを和らげて検査をしていただくために健診スタンプラリーやいろいろなレクリエーションを取り入れました。レクリエーションでは医学生(3名)や青年ジャンボリー職員(4名)、ボランティアグループ「チームおせっかい」に採血や甲状腺エコー検査待ちで退屈することなく、検査はスムーズに行えました。

職員の感想は「避難者の方が思った以上に心配を抱えていることを実感しました。小児科医として協力できることはしていきたい。」「普段多忙な先生方も参加していただき、これぞ民医連！と実感できました。」「福島支援に直接行きたいと思うがなかなか実現できず悶々としていました。健診に参加し震災の現実を垣間見れました。私たちはもっと寄り添いもっと知らなければならないと実感しました。」などが寄せられました。

これから健診の結果返しや結果相談会を予定しています。最低10年は続けていかなければならないもので健診費用の負担軽減を国へ要請していくことも重要なことだと感じました。また被ばく対策委員会で提案していきますのでご協力下さい。（被ばく対策委員：松本理花）